

会 議 録

1 会議名

平成 28 年度第 10 回高土区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

協議事項

1 地域活動支援事業について（公開）

(1) 平成 29 年度地域活動支援事業の採択決定までのスケジュールについて

(2) 平成 29 年度地域活動支援事業に係る審査方法の検討について

2 自主的審議について（高土の未来づくり懇談会のまとめ）（公開）

3 開催日時

平成 29 年 3 月 14 日（火）午後 6 時 30 分から午後 8 時 10 分まで

4 開催場所

高土地区公民館 2 階 中会議室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：青木正紘（副会長）、飯野憲静（会長）、小林トシ子、中嶋真一、樋口義昭、日向こずえ、細谷八重子、横川英男、横山とも子（欠席 3 人）

・事務局：中部まちづくりセンター 山田センター長、野口係長、小林主事

8 発言の内容（要旨）

【小林主事】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【飯野会長】

・挨拶

【小林主事】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【飯野会長】

- ・会議録の確認者：横川委員

協議事項の1つ目、地域活動支援事業についての(1)平成29年度地域活動支援事業の採択決定までのスケジュールについて、事務局に説明を求める。

【小林主事】

- ・資料No.1、資料No.2により説明

【飯野会長】

事務局からの説明について質問等はあるか。

(発言なし)

それでは、平成29年度第1回高土区地域協議会の開催日について決める。

— 日程調整 —

協議の結果、平成29年度第1回高土区地域協議会は4月19日(水)に決定した。

次に第2回高土区地域協議会の開催日について決める。この会議では、地域活動支援事業について提案事業に対するヒアリングを実施する予定なので、なるべく委員全員が出席できる日としたい。

— 日程調整 —

第2回高土区地域協議会は5月16日(火)に決定した。

また、全ての提案事業についてヒアリングを行うということだが、開始時間はどうか。今年度のように午後6時からにするのか、通常どおり午後6時30分からにするか。委員へ意見を求める。

【横川委員】

今年度は午後6時から始めて、午後9時過ぎまでかかった。来年度も今年度と同様の提案があると見込み、午後6時開始としてはどうか。

【飯野会長】

横川委員が言われるように、来年度も今年度並みの提案件数があると見込み、開始時間は午後6時からでよいか。

(「よし」の声)

最後に第3回高土区地域協議会の日程を決める。日程調整に関して事務局へ説明を

求める。

【小林主事】

- ・ 日程説明

【飯野会長】

最短日程だと 6 月 5 日（月）になる。第 3 回高士区地域協議会の開催日を 6 月 5 日（月）としてよいか。

（「よし」の声）

時間については通常どおり午後 6 時 30 分からでよいか。

（「よし」の声）

次に、(2) 平成 29 年度地域活動支援事業に係る審査方法の検討に入る。事務局に説明を求める。

【小林主事】

- ・ 資料No.3 により説明

【飯野会長】

今の説明に質疑を求める。

（発言なし）

それでは、項目ごとに決めていく。

1 つ目の項目、「基本審査判定」については、平成 28 年度と同様としてよいか。

（「よし」の声）

2 つ目の項目、「評価の低い事業とする基準」は 2 つの基準があるが、その 1 つ目、「採択方針の適合性」は平成 28 年度と同様としてよいか。

（「よし」の声）

次に「評価の低い事業とする基準」の中の 2 つ目、「共通審査基準に基づく採点」は平成 28 年度と同様としてよいか。

（「よし」の声）

次に 3 つ目の項目、「順位付けの方法」と「評価の低い事業の取扱い」について、平成 28 年度と同様としてよいか。

（「よし」の声）

最後に「その他」として「委員が事業提案者の場合の当該事業の審査」について、どのように取り扱うかを決めたい。

他区では「委員が提案者の場合は、当該事業の採点を行わない」と定めているところもある。高士区では、委員が事業の提案者であった場合も、地域協議会委員の立場で公平に審査することを大前提として、他の事業と同様に審査してきた。この件について、来年度はどのように取り扱うか、皆さんからご意見をいただきたい。

【横川委員】

会長が言われるとおり、高士区ではこれまで全ての提案について全委員が審査してきたが、特に問題はなかった。来年度も「委員の立場で公平に審査する」ことをお互いに確認し、今までどおりの方法でよいと思う。

【飯野会長】

他に意見を求める。

(発言なし)

では、平成 28 年度と同様とする。だが、委員の中で提案団体の代表者または提案団体に所属している場合は、関係する提案を審査する際に、その提案が有利となるような意見を発言することは控えてもらいたいということをお願いする。

以上で来年度の地域活動支援事業について、提案の募集前に決めなければいけないことは全て決まった。

次に協議事項の 2 つ目、「自主的審議について」事務局に説明を求める。

【小林主事】

- ・資料No.4 により説明

【飯野会長】

これからフリートークに入る。高士の未来づくり懇談会で地域の皆さんからいただいた意見を踏まえ、高士区地域協議会として来年度にどのようなことをしたいのか、また何をテーマに自主的審議を進めていきたいのかを中心に意見交換をしたい。

ー フリートークの内容は下記のとおり ー

テーマ① 高士スポーツ広場について

- ・高士の未来づくり懇談会では、旧高士中学校跡地の活用について意見が多く挙がった。現在は、高士スポーツ広場として市が管理しているが、後 1 年ほどで廃止になるという計画がある。廃止となる前に、地域で記念イベントを行うなど、できる事がないか検討したい。
- ・高士スポーツ広場の廃止について、近くに住んでいる人は関心を持っているが、ス

スポーツ広場から離れた町内の人との温度差を感じる。高士区全体が高士スポーツ広場について関心を持つような仕掛けが必要。

- ・現在は市の施設だが、実際の管理は高士地区体育協会が行っていると思う。市の施設として廃止になった後も地元で活用するために高士地区体育協会が引き続き管理することはできないか。
- ・現在、高士地区体育協会では市の委託を受けて草刈等の協力をしている。ただ、体育館については耐震基準をクリアしていないと聞いている。市から施設を譲り受けた場合、耐震基準を満たしていない施設を地元が抱えることは難しいのではないか。
- ・廃止後の管理を地元で行うことは難しいかもしれないが、廃止前に記念のイベントを行うことは可能だと思う。地域協議会から卒業生に声をかけて協力してもらってはどうか。

テーマ② 地域おこし協力隊の活用など移住者を増やす取組について

- ・最近、新聞やテレビで「地域おこし協力隊」の特集をよく見る。これは国の制度だと思うが、高士区でも活用することができるかを勉強したい。

テーマ③ 研修会の開催について

- ・まずは、地域協議会としての方向性を定めることが必要だと思う。高士の未来づくり懇談会では「地域でやってみたいこと」のアイデアをたくさんいただいた。ただ、これら全てに取組む時間はないと思う。どのようにテーマを絞り込み、どれだけのことを実現するかが大切だ。そうなったときに、「地域づくり」に精通した人の指導を受けることが必要ではないか。
- ・地域づくりに精通した人を高士区に招いて、地域を見てもらい、どのように高士区の地域づくりを進めて行ったらよいかを助言してもらいたい。
- ・高士区の中では解決しないことも、客観的に見てもらうことで解決方法が導き出せると思う。
- ・講師を招くことは良いことだが、その人に任せっぱなしは良くない。アドバイスをもらうことは大切だが、実行部隊は地域住民であるべきだと思う。
- ・大阪の企業で、「studio-L」というコミュニティーデザインやまちづくりを専門に行っているところがある。大学の教授も所属しているようなので、このような専門家から来ていただきたい。
- ・講師の選定が重要となる。地域に入って、その地域に合った解決方法を導いてくれ

る方でないと意味がない。妙高市や三条市では地域づくりのプロが入って成功した事例があると聞いているので、他市の成功事例を参考にしながら講師の選定を行うとよいと思う。

- ・高士区では、キャンドルイベントをはじめ単発的なイベントは成功している。ただ、このようなイベントが将来ずっと続くかと言われると難しいと思う。イベントを行うことは大事だが、それとは別に高士区が10年後、20年後も発展していくための方法を模索する時期がきているのだと思う。
- ・高士区の発展のためには「子どもを増やす」ことが必要だと思う。例えば、若い夫婦が好みそうなオシャレな古民家を提供するなど、方法はあると思うが、それを実現するためのスキルを学ぶことが大切だ。それと同時に、転入者が出て行かないように「高士の魅力づくり」を行う必要がある。
- ・十日町市や妙高市で「地域づくり」に取組み、成功した事例を知っているので、高士区に招く講師を選定する際の参考としたい。
- ・講演会や研修会を行うのであれば、委員だけでなく地域の方も参加できるようにしたい。地域の方に「地域づくりは楽しいもの」と思ってもらえるような講演会にしたい。
- ・キャンドルイベントの時に感じたが、高士区には地域の行事などの窓口となる事務局がないため、個人の負担が大きい。規模が大きいイベントになるほど事務局の機能が必要となる。今は若い世代が頑張ってくれているが、私たち町内会長世代も協力しなければいけないと感じた。地域協議会主催で講演会や研修会を行う時には、若い世代はもちろん、町内会長世代の方からも参加してもらいたい。
- ・キャンドルイベントをはじめ、地域の行事やまちづくりを盛り上げるためには、NPO法人を立ち上げる必要があると思う。イベント時の電話対応も専属の方にやってもらえば個人の負担が軽減できると思う。研修会のテーマの候補の1つとしてNPO法人の立ち上げ方を学ぶというもの面白いと思う。
- ・前期の地域協議会で研修に訪れた「小布施若者会議」の方を招いてはどうか。行政と連携しながら様々な活動を実践していてとても良かった。

【飯野会長】

予定していた時間を過ぎたので、本日のフリートークはここまでとする。最後に、これまでのフリートークの内容で質問があれば発言してほしい。

【中嶋委員】

フリートークの中で、「高士区に講師を招いて研修会をしたい」という意見で盛り上がったが、実際に講師を呼ぶ場合、謝礼や交通費などの費用が発生する。財源はどのように確保すればよいか。

【小林主事】

地域協議会が主催で講師を招いて研修会を行う場合、市の予算を使うことができる。この予算を有効に使えば、高士区に講師を招くことが可能だ。

【飯野会長】

他に質問がないので、閉会に移る。

- ・会議の閉会を宣言

【青木副会長】

- ・閉会の挨拶

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-5111 (内線 1449、1547)

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。